

令和4年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)



令和3年10月15日

上場会社名 株式会社ブロッコリー

上場取引所 東

コード番号 2706 URL <https://www.broccoli.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 善之

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員コーポレート本部長 (氏名) 渡邊 朋浩

TEL 03-6685-1366

四半期報告書提出予定日 令和3年10月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 令和4年2月期第2四半期の業績(令和3年3月1日～令和3年8月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
4年2月期第2四半期	3,211	7.4	116	△81.2	130	△79.5	47	△89.2
3年2月期第2四半期	2,991	9.4	620	82.0	636	83.1	438	58.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
4年2月期第2四半期	5.39	—
3年2月期第2四半期	50.10	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
4年2月期第2四半期	10,932	9,569	87.5
3年2月期	10,977	9,749	88.8

(参考)自己資本 4年2月期第2四半期 9,569百万円 3年2月期 9,749百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
3年2月期	—	0.00	—	26.00	26.00
4年2月期	—	0.00	—	—	—
4年2月期(予想)	—	—	—	26.00	26.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

令和4年2月期(予想)の配当性向は、174.9%となります。

3. 令和4年2月期の業績予想(令和3年3月1日～令和4年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,000	△4.9	250	△74.2	280	△72.0	130	△75.1	14.86

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	4年2月期2Q	8,747,642 株	3年2月期	8,747,642 株
② 期末自己株式数	4年2月期2Q	372 株	3年2月期	372 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	4年2月期2Q	8,747,270 株	3年2月期2Q	8,747,270 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 1.本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表日及び現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成されたものでありますが、業績等につきましては様々な要因により、今後大きく異なる可能性があります。
- 2.当社は、「財務諸表等規則」に従い財務諸表を作成しております。
- 3.当社は、令和元年8月30日に株式会社LANTERN ROOMSの株式を100%取得したことに伴い、同社を子会社化しておりますが、資産、売上高、損益、利益剰余金に及ぼす影響が僅少であり、現時点では重要性が乏しいため、非連結子会社としております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社が属するエンターテインメント業界では、国内外のスマートフォンゲーム市場の成長・国内家庭用ゲーム市場のゆるやかな拡大傾向を背景に、ゲームコンテンツ市場と関連するキャラクター市場が世界的にも長期的に高成長が続くと見込まれておりますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により経済活動が停滞し、持ち直しの動きも見られますものの、依然として先行き不透明な状況が継続しております。

このような状況下における、当第2四半期累計期間（自 令和3年3月1日 至 令和3年8月31日）の経営成績の概況は、以下のとおりであります。

まず、「うたの☆プリンスさまっ♪」におきましては、4月より全国のファミリーマートにて「うたの☆プリンスさまっ♪ Shining Live」コラボキャンペーンを開催。同月、株式会社 丸井グループ開催のイベント「PRINCE CAT -SPRING HAS COME-」を全国6カ所にて開催。6月には10周年を記念した「UTA☆PRI EXPO-10th Anniversary-」を池袋サンシャインシティにて開催いたしました。10周年を記念した当イベントでは、これまでの歴史を振り返る展示やステージ衣装展示の他、新作ミュージックビデオ3曲の上演も行い、皆様から温かいコメントを沢山頂戴いたしました。7月からは、原宿・名古屋・大阪・福岡にて夏季限定ショップ「SHINING STORE」を開催、緊急事態宣言が全国的に拡大する最中の開催となり、苦戦を強いられる運営となりましたが、当第2四半期累計期間の関連グッズの売上高・売上総利益は、前年を僅かに下回る数値で着地いたしました。

関連ゲームアプリ「うたの☆プリンスさまっ♪ Shining Live」の売上高・売上総利益につきましては、前年を下回る結果となりました。

関連CDは、3月にQUARTET NIGHTメンバーによるアイドルソング2作品を発売。6月には新作ミュージックビデオを収録した「うたの☆プリンスさまっ♪10th Anniversary CD」を発売。オリコン週間シングルランキング 2位にランクインいたしました。8月にはアイドル11人が送るオールスターCD第3弾「Shining All Star CD3」を発売し、オリコン週間シングルランキング 4位にランクインすることが出来ました。これらの結果、関連CDの売上高・売上総利益は、前年の倍の数値を確保いたしました。

「ジャックジャンヌ」につきましては、3月にNintendo Switch™用ゲームソフト「ジャックジャンヌ」を発売。9月には音楽CD2作品を発売（うち1作品は発売元：株式会社 SCHOLE）する等、今後も更なるコンテンツの成長に向け新たな展開を図ってまいります。

他社ライセンスグッズにつきましては、昨年11月に株式会社 丸井グループ開催のイベント「呪術廻戦 limited shop ーマルイ編ー」にて呪術廻戦グッズを発売し大きな反響をいただき、当期に入りましても、大手コンビニエンスストア及びアニメイトを中心に取扱いが拡大いたしました。加えて他社イベントも徐々に開催され始めたこと等により、他社ライセンスグッズは前年を大幅に上回る売上高・売上総利益を確保いたしました。

トレーディングカードゲーム「Z/X -Zillions of enemy X- (ゼクス ジリオンズ オブ エネミー エックス)」は、4月に新システム「アルターブレイク」を搭載したブースターパック「極点超越編 進化<アルターブレイク>」を発売。当第2四半期におきましても、6月に「EXパック第27弾 ドラゴンカジノへようこそ!」、7月にブースターパック「極点超越編 幻想<シルバーバレット>」、8月に「EXパック第28弾 シークレット☆フェスティバル!!」を発売し、更に、通販では関連商品の発売点数強化を行いました結果、復調基調には入っておりますが、当第2四半期累計期間の売上高・売上総利益は前年を下回る結果となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、10周年記念イベント開催や新作ゲーム発売に伴う運営費・販促費を増加させたことから、944百万円（前年同期比44.7%増）となりました。

これらの結果、当第2四半期累計期間の売上高は3,211百万円（前年同期比7.4%増）となりましたが、営業利益は、116百万円（同81.2%減）、経常利益は130百万円（同79.5%減）となりました。四半期純利益につきましては、当第2四半期に一部着手していたゲームの開発中止を決定したことにより特別損失59百万円を計上いたしました結果、47百万円（同89.2%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産の残高は7,851百万円で、前事業年度末に比べ402百万円減少しております。主な内容は、商品及び製品の増加130百万円、仕掛品の増加11百万円などの増加要因に対し、現金及び預金の減少192百万円、売掛金の減少142百万円、映像コンテンツの減少21百万円、その他の減少186百万円などの減少要因であります。

(固定資産)

当第2四半期会計期間末における固定資産の残高は3,081百万円で、前事業年度末に比べ357百万円増加しております。主な内容は、無形固定資産の増加232百万円、投資その他の資産の増加153百万円などの増加要因に対し、有形固定資産の減少28百万円であります。

(流動負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債の残高は1,255百万円で、前事業年度末に比べ122百万円増加しております。主な内容は、買掛金の増加111百万円、返品調整引当金の増加7百万円、賞与引当金の増加24百万円、その他の増加103百万円などの増加要因に対し、未払法人税等の減少124百万円などの減少要因であります。

(固定負債)

当第2四半期会計期間末における固定負債の残高は108百万円で、前事業年度末に比べ13百万円増加しております。主な内容は、役員退職慰労引当金の増加26百万円などの増加要因に対し、退職給付引当金の減少12百万円であります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は9,569百万円で、前事業年度末に比べ180百万円減少しております。これは、四半期純利益47百万円が計上された一方で、剰余金の配当227百万円が行われたことが主な要因であります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前事業年度末と比べて192百万円減少し3,429百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは386百万円の資金の増加（前年同四半期累計期間は17百万円の資金の増加）となりました。その主な内訳は、税引前四半期純利益の計上による70百万円、減価償却費46百万円、売上債権の減少額142百万円、仕入債務の増加額101百万円、賞与引当金の増加額24百万円、役員退職慰労引当金の増加額26百万円、ソフトウェア開発中止損の計上による59百万円、その他の増加額191百万円などのプラス要因と、たな卸資産の増加額125百万円、退職給付引当金の減少額12百万円、法人税等の支払額148百万円などのマイナス要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは352百万円の資金の減少（前年同四半期累計期間は3,195百万円の資金の減少）となりました。その主な内訳は、定期預金の払戻による収入3,000百万円、貸付金の回収による収入4百万円などのプラス要因と、定期預金の預入による支出3,000百万円、無形固定資産の取得による支出350百万円、有形固定資産の取得による支出6百万円などのマイナス要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは226百万円の資金の減少（前年同四半期累計期間は227百万円の資金の減少）となりました。その主な内訳は、配当金の支払額225百万円、リース債務の返済による支出1百万円であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和4年2月期通期業績予想につきましては、令和3年10月15日付公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」に記載しておりますとおりであります。

配当予定につきましては、変更はありません。

なお、業績見通し等の将来に関する記述は、当社が発表日及び現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成しておりますが、業績等につきましては経営環境の変化やその他様々な要因により大きく異なる可能性がありますので、その場合には開示が可能となった時点で速やかに業績予想の修正を公表いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (令和3年2月28日)	当第2四半期会計期間 (令和3年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,621,667	6,429,274
売掛金	643,426	500,624
商品及び製品	302,297	433,180
仕掛品	367,801	378,916
原材料及び貯蔵品	4,196	2,144
映像コンテンツ	21,280	0
その他	295,862	109,467
貸倒引当金	△2,629	△2,106
流動資産合計	8,253,902	7,851,503
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,220,963	1,220,963
減価償却累計額	△308,403	△330,823
建物(純額)	912,559	890,139
土地	907,414	907,414
その他	176,591	183,716
減価償却累計額	△121,126	△134,690
その他(純額)	55,465	49,025
有形固定資産合計	1,875,439	1,846,580
無形固定資産	448,323	681,081
投資その他の資産		
その他	401,703	555,383
貸倒引当金	△2,000	△2,000
投資その他の資産合計	399,703	553,383
固定資産合計	2,723,467	3,081,045
資産合計	10,977,369	10,932,549
負債の部		
流動負債		
買掛金	294,275	406,182
未払法人税等	168,165	43,399
返品調整引当金	82,182	89,331
賞与引当金	74,274	98,859
その他	514,047	617,280
流動負債合計	1,132,946	1,255,052
固定負債		
退職給付引当金	37,527	25,043
役員退職慰労引当金	8,666	35,119
その他	49,006	48,269
固定負債合計	95,199	108,432
負債合計	1,228,146	1,363,485

(単位：千円)

	前事業年度 (令和3年2月28日)	当第2四半期会計期間 (令和3年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,361,275	2,361,275
資本剰余金	2,066,627	2,066,627
利益剰余金	5,319,043	5,138,800
自己株式	△781	△781
株主資本合計	9,746,164	9,565,922
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,058	3,141
評価・換算差額等合計	3,058	3,141
純資産合計	9,749,222	9,569,064
負債純資産合計	10,977,369	10,932,549

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 令和2年3月1日 至 令和2年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自 令和3年3月1日 至 令和3年8月31日)
売上高	2,991,206	3,211,424
売上原価	1,718,368	2,150,925
売上総利益	1,272,837	1,060,499
販売費及び一般管理費	652,466	944,119
営業利益	620,371	116,379
営業外収益		
受取利息及び配当金	518	1,071
不動産賃貸料	37,963	34,843
その他	1,456	1,709
営業外収益合計	39,938	37,624
営業外費用		
支払利息	77	33
不動産賃貸費用	23,779	23,583
その他	—	50
営業外費用合計	23,857	23,667
経常利益	636,452	130,336
特別損失		
ソフトウェア開発中止損	—	59,460
特別損失合計	—	59,460
税引前四半期純利益	636,452	70,876
法人税等	198,237	23,689
四半期純利益	438,215	47,186

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 令和2年3月1日 至 令和2年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自 令和3年3月1日 至 令和3年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	636,452	70,876
減価償却費	42,684	46,970
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	771	△522
賞与引当金の増減額 (△は減少)	39,647	24,584
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△19,000	—
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	13,184	△12,484
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△989	26,453
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△1,211	7,148
受取利息及び受取配当金	△518	△1,071
支払利息	77	33
ソフトウェア開発中止損	—	59,460
売上債権の増減額 (△は増加)	△185,383	142,801
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△352,322	△125,061
仕入債務の増減額 (△は減少)	251,609	101,926
その他	△288,796	191,926
小計	136,203	533,041
利息及び配当金の受取額	518	2,564
利息の支払額	△77	△33
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△119,144	△148,895
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,501	386,676
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△32,015	△6,888
無形固定資産の取得による支出	△168,336	△350,041
貸付金の回収による収入	4,999	4,999
定期預金の預入による支出	△3,000,000	△3,000,000
定期預金の払戻による収入	—	3,000,000
その他	53	△580
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,195,298	△352,510
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△225,699	△225,431
リース債務の返済による支出	△1,604	△1,127
財務活動によるキャッシュ・フロー	△227,303	△226,559
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,405,101	△192,392
現金及び現金同等物の期首残高	6,883,807	3,621,667
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,478,706	3,429,274

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

当社はエンターテインメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。